

てんさんぽ その42 系田川 紹々

私が宝塚市内でいつも
尊い気持ちで見ているところ
それは
こちらです




手塚治虫記念館

手塚治虫先生といえは
マンガの神様
ポクも大好き



ときどき神様の空気を
すいに行きます



手塚治虫記念館は1994年に開館した、宝塚市で育った漫画家、手塚治虫先生についての資料や作品を展示している記念館です。手塚先生ゆかりの原稿や愛用品などの常設展示に加えて、企画展という形のイベントも行っています。10月29日までは大阪のゲーム会社カプコンの「ストリートファイター」シリーズなどカプコンの対戦格闘ゲームにまつわる展示を行っています。私も観て参りました。入館料は700円。休館日が月曜日に変更になっていますので、ご注意ください。手塚治虫先生の著作のほぼ全部をその場で読むことができるスペースがあり、珍しい絵本や学習教材などもあります。以前は美味しいコーヒーを飲める喫茶店もあったのですが、リニューアルに伴い残念ながら2019年になくなってしまいました。
(紹々)

宝塚市大使 やすみりえの「川柳日和り」

本誌6月号で「旅」をお題に川柳を募集。応募総数104句の中から川柳作家のやすみりえ先生が選んだ秀作を紹介します。

天

道聞けば
その人もまた
旅の人

岡京子 様

講評

言葉の並びとテンポが心地よい作品です。旅先でのちょっとした出来事も、こうして川柳にすれば良い思い出になりますね。同じ場所を旅する者同士、会話が弾んだのかもしれない。

地

人生は
喜怒哀楽と
ふたり旅

みゆき 様

講評

人生そのものを「旅」として詠んだ一句。大きな目線でお題をとらえたところが成功しました。さまざまな感情とともに生きていく人間の姿が浮かびます。

人

本年も
やっとうにか
二人旅

村田勝彦 様

講評

ご夫婦の様子を飾らずに表現し、等身大の川柳に仕上げられていますね。「本年も」という言葉から毎年一緒に旅をしているということも想像できます。

佳作

旅で知る誰も知らない素の私
知らぬ町寅さん真似て一人旅
孫と行く公園までの旅気分
今日だけは皆若返るバスツアー

美三子 様

東耕 真 様

村上茂樹 様

中村優貴子 様

やすみ先生の一句

東京を空っぽにして旅人に

現在東京在住の私にとって、東京は日常の場。仕事や用事を片付けて「いよいよ旅に出るぞ!」という様子を詠みました。長期の旅の時は、冷蔵庫も空っぽにしておかないといけませんね(笑)!



総評

今回は旅での実際のエピソードを川柳にされた方が多かったです。入選作品、地の句の下五「ふたり旅」と人の句の下五「二人旅」は同じ言葉が同じ場所に収まっていますが表記が平仮名と漢字で異なります。いずれもその表記が句の雰囲気によく合っていると思います。作品全体の印象をも左右する表記の魅力を皆さん是非ご参考になさってください。

次回の川柳募集

お 題 「真ん中」

募集締切 10月13日金まで

対 象 市内在住・在勤・在学の人

応募方法 はがきに、基本事項とお題をもとにした川柳(未発表作品のみ、3句まで)、作品について一言を書いて、〒665-8665(住所不要)市役所広報課「川柳」係へ。二次元コードから申し込み可。入選者にはプレゼントあり。

問 広報課(☎77・2002 FAX74・6903)

